



▲花の話をしていると  
時間を忘れてしまいます  
(左：岩淵さん、右：池田さん)

花愛好会幹事で、花いっばい運動の国道小委員会委員長を務める岩淵義弘(いわぶちよしひろ)さんは、「町内会の人と商店街の人が手を取り合って、運動を進めることができました」と今後の連携を期待しています。

「花の手入れをしている時に、道行く人からきれいですねと声を掛けられると励みになります。専門家ではないん

ですが、花について質問され、講習会で学んだことなど分かる範囲で教えてあげることもあるんですよ」と岩淵さん。

花を通じた地域での小さなふれあいを喜んでいました。

**参加者倍増！  
ガーデニングコンテスト**

平成十四年に第一回フラワーガーデニングコンテストが開催され、六十七点の応募があったのに対し、二回目の今年は約二倍の百三十点もの応募がありました。

このコンテストは、道行く人に花を楽しんでもらおうと、庭先や玄関、窓辺など道路から見える部分の花の美しさや管理の具合などを審査するものです。

八月六日に行われた一次審査では、応募された写真から二十点を選び、八月十日には園芸の専門家を含む七人が、実際に各家庭を訪問し二次審査を行いました。

今年の最優秀賞受賞者は池田晶子(いけだあきこ)さん。昨年も特別賞を受賞するなど花に掛ける思いは人一倍です。

毎年室内で種をまき、芽が

出たところでポットに植え換え、え苗を作り、今年は八百鉢くらい作ったそうです。雨の日には花が痛んでしまうため、透明なビニールをかけ、花を守りながら道行く人に楽しんでもらえる工夫もしています。

池田さんは、「ご近所の方や道行く人と花の話をすることが増えました。毎日の庭仕事とおしゃべりが楽しみです」とご近所との日々の交流を楽しんでいました。

**軒先から  
地域全体に広がって**

花いっばい運動の輪が着実に広がっている藤野地区。岩淵さんは、「一軒の家が花壇をきれいにすると、両隣の家も少しずつ花を植えるようになってきました。各家庭での花植えが点とすれば、点が増えて線となり、地域全体が花いっばいになってほしいですね」と今後さらなる活動の広がりを期待しています。

「花が好き、笑顔が好き、大好き藤野」の合言葉の通り、花いっばいのまちづくりを通して、地域のふれあいが活発になることが楽しみです。



▲美しい花ばかりで、  
審査は困難を極めました



▲国道230号沿線、きれいに植えました



▲130点の作品を慎重に審査しました



▲コンテスト最優秀賞受賞の池田さんの庭

